

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究3】福祉療養施設への出張研修、意見交換に関する研究

研究分担者：末盛浩一郎（愛媛大学医学部 准教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和3年度の研究として愛媛では、積極的にHIV感染者の介護・受け入れを推進するために地域の療養型病院および福祉施設へ直接出張講義を年に数施設単位（各参加者30～100名程度）で行う。そのため、当院から医師・看護師・薬剤師・MSWのHIV診療チームとして出向して講義をし、かつ各出張講義の終了時に全参加者にHIV感染者の福祉・介護についてアンケートを行う計画であったが新型コロナウイルス蔓延にて中止した。高知県では今年度の出張講義は1医療機関で実施し20名の医療スタッフが研修に参加した（訪問看護師による在宅療養支援を行っていたが、認知機能の悪化により、地域医療施設への入所になった患者の連携も兼ねて）。研修内容は、HIV感染症の基礎知識、HIV感染症の治療、感染予防策・血液曝露後の対応、高知県の現状などであり、患者紹介とともに大学病院と地方の医療施設との円滑な連携が図られた。残念ながら、出張研修が十分には行えなかったが、これらの出張研修は施設への啓蒙とともにHIV患者の入所・受け入れにも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えて次年度に多くの施設で実施したい。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・教授

井門敬子・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

小野恵子・愛媛大学医学部附属病院・総合診療サポートセンター・社会福祉士

武内世生・高知大学医学部・准教授

窪田良次・香川大学医学部・教授

尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局次長

A. 研究目的

ブロック拠点病院が四国にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計210名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が各県31.5～34.8%であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染お

よび合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているが HIV に対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえ、当院では数年前より HIV 診療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべき HIV 感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。

この背景のもと療養病院および福祉施設にて出張研修を通じて HIV 診療や介護の意識改善・啓蒙に努めることを目的とした。また、アンケート調査等を通じ地方の HIV 診療に関する連携の実態を把握し問題点を検討する。

B. 研究方法

積極的に HIV 感染者の介護・受け入れを推進するために地域の療養型病院および福祉施設へ直接出張講義を年に数施設単位（各参加者 30～100 名程度）で行う。当院から医師・看護師・薬剤師・MSW の HIV 診療チームとして出向して講義をし、かつ各出張講義の終了時に全参加者に HIV 感染者の福祉・介護についてアンケートを行う。またこの講義の理解度・感想も確認する。

なおそれらの意見を、介護用の小冊子（分担研究 4）にも反映させる。また、四国の他県でもこの出張研修を推進してもらう。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

HIV 感染者の増加に対応するため積極的に HIV 感染者の介護・受け入れを推進するために愛媛県内の地域の療養型病院および福祉施設へ直接出張講義を行う予定であったが、新型コロナウイルス蔓延にて今年度は実施しなかった。なお、高知県では今年度の実施は 1 医療機関で実施し 20 名の医療スタッフが研修に参加した（訪問看護師による在宅療養支援を行っていたが、認知機能の悪化により、地域医療施設への入所になった患者の連携も兼ねて）。研修内容は、HIV 感染症の基礎知識、HIV 感染症の治療、感染予防策・血液曝露後の対応、高知県の現状などであり、患者紹介とともに大学病院と地方の医療施設との円滑な連携が図られた。

D. 考察

四国地区にはブロック拠点病院はないものの、当院では令和 3 年度末現在累計 210 名以上の HIV 診療経験があり（県内の大半の HIV 診療を担当）、愛媛県での中核拠点病院の立場にある。また、四国の他県からも患者は通院している現況である。HIV 感染者・エイズ患者が全国的に増加する傾向にあるが、四国も例外ではなく、愛媛県においても新たに毎年 10 名以上の新規感染者・患者が報告されており、また年配の帰郷者も少なからずあり、そのため高齢の

HIV感染者が多く見られHIV診療の充実は早急に迫りつつある課題であると考えられる。さらに愛媛県をはじめとする地方においては、高齢のHIV/エイズ患者が比較的多く、愛媛県において令和3年末現在50歳以上の8割は発見時にエイズ患者であるという現実があり、各拠点病院と長期療養患者を受け入れ得る介護・福祉療養施設間の連携は緊喫の課題である。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で愛媛県では直接出張講義が行えなかったが、高知県ではHIV診療チームとして実際の患者を受け入れる1施設へ訪問支援を行えた。今後多くの施設においてこのような継続した活動を行い、介護や福祉環境を要するHIV患者の受け入れが円滑に行い得えると考えられ、直接に行う出張講義は積極的な連携の1方法として意義が高いと考える。

なお、これらの当院で継続して行っている実践的な啓蒙は、エイズ学会での発表および雑誌に投稿し査読の結果、令和3年1巻に掲載された。この研究事業によって、学会報告とともに、文体としてしかも継続的に研究期間中に、福祉連携のモデルとしての成果を全国に発信できたことも極めて意義深い。

また、高齢化の進んだ地方においては、薬剤の改良が年々進んでいるものの、今後HIV感染者の高齢化とともに薬剤の副作用を考慮した内服継続・薬剤の減量なども重要な観点として検討していく必要があると思われる今後の1課題と考えている。

地方において、充足した生活が1人では送れないHIV感染患者に対し、拠点病院および介護福祉間の連携が円滑にできるよう

に年々努めていく必要があると考える。さらになお、その介護福祉連携のモデル地域として今後も研究・報告を当地区から全国に発信していきたいと考える。

E. 結論

四国のブロック拠点病院がない地域において、HIV診療体制整備のために積極的に出張講義を行うことで、各介護・福祉療養施設での具体的な問題を整理し知識・経験を共有することを目的としている。高齢化社会を迎え介護・療養が必要なHIV感染・エイズの増加に対応するために、HIV診療体制の整備は、特に地方においては拠点病院間のみならず介護・福祉施設との福祉連携の充実が不可欠であり研究を継続し地方のモデルという立場からもさらに向上に努めたい。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 末盛浩一郎、田中景子、石川明子、小野恵子、芝田佳香、武田玲子、若松綾、宮崎雅美、中尾綾、乗松真大、木村博史、山岡多恵、井門敬子、竹中克斗、高田清式、愛媛県の各医療機関におけるHIV/AIDS研修会後のアンケート調査を介した比較検討. 日本エイズ学会誌,23(1):26-32, 2021
2. 高田清式、臨床検査を使いこなす. EBウイルス、サイトメガロウイルス. 日本医師会雑誌生涯教育シリーズ150巻特別号: 290-293, 2021
3. 高田清式、サイトメガロウイルス核酸定量について. モダンメディア67巻7号:

14-17, 2021

4. 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧正、四國友理、北村優衣、高田清式、武内世生. 医療機関における HIV 陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み. 日本エイズ学会誌 (投稿中)

2. 学会発表

1. 中尾綾、レイシー清美、末盛浩一郎、河邊憲太郎、山之内純、竹中克斗、高田清式. HIV 感染者の気分状態と関連因子の検討. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.

2. 菊池正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、程野哲朗、佐藤かおり、高田清式、杉浦互、吉村和久他. 国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.

3. 西田拓洋、中尾綾、臼井麻子、吉川由香、海面敬、赤松祐美、谷英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤穰、窪田良次、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式. 中国四国地方における HIV 関連神経認知. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.

4. 井門敬子、乗松真大、木村博史、中川進平、川上幸伸、若松綾、本園薫、中尾綾、末盛浩一郎、飛鷹範明、田中守、高田清式. HIV 在宅介護研修における薬剤師の活動. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.

5. 中川進平、井門敬子、乗松真大、木村博史、川上幸伸、末盛浩一郎、中尾綾、若松綾、高田清式、飛鷹範明、田中守. 介護ケアセンター職員向けに作成した抗 HIV 薬に関する冊子の評価 (第 2 報). 日本エ

イズ学会、2021 年、WEB 開催.

6. 若松綾、本園薫、越智俊元、木原久文、末盛浩一郎、井門敬子、小野恵子、中尾綾、山岡多恵、竹中克斗、高田清式. イスラム教徒の妊婦を多職種で支援した一例. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.

7. 武内世生. 臨床から具体的なワクチン例および接種状況、SCB シンポジウム 3、HIV 感染者のワクチン接種. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.

H. 知的財産権の登録状況 (予定を含む)

該当なし